

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成29年 11月 22日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3471503692		
法人名	有限会社 どんぐり村		
事業所名	グループホーム どんぐり村		
所在地	〒729-0111 広島県福山市今津町1456-1 (電話) 084-933-6138		
自己評価作成日	平成29年9月30日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=3471503692-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 FOOT&WORK
所在地	広島県広島市安芸区中野東4丁目11-13
訪問調査日	平成29年11月22日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

地域との絆を大切にし「ゆっくり・楽しく・自分らしく」をモットーにひとりひとりに合わせたケアを行いご本人・ご家族様とのコミュニケーションを大切にしながら笑顔で一緒に過ごせるよう心掛けています。
又ご本人、ご家族様のご希望があればターミナルケアも行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホームどんぐり村は、山と川に囲まれた静かな環境の中で、「ゆっくり・楽しく・自分らしく」を理念に掲げ、地域との交流も盛んで、地域に根ざしたホームである。1ユニットという事もあり、家庭の延長で、温かみを感じる。利用者一人ひとりに寄り添い会話が弾んでいて、皆で作成した、季節を感じさせる壁画が飾ってある。毎月のように、ボランティアの方が来られ、ピアノや、バイオリン演奏を楽しまれている。又、朝の体操を日課として、体調管理及び下肢筋力低下の予防に心掛けるようにしている。季節行事として、八幡神社へ初詣で・節分会・バレンタインデー・ひな人形鑑賞・クリスマス会等、行っており、利用者に喜ばれている。

グループホーム どんぐり村

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	職員会議で 理念を掘り下げて職員全体で話し合い一人ひとりにあった具体的なケアについて意見の統一を図っている。	利用者の意思や人格を尊重し、「ゆっくり・楽しく・自分らしく」を理念に掲げ、常に職員の目につく様、事務所に掲示し、皆で共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域住民の一員として 町内の行事に参加させてもらっている。河川敷の清掃参加(年4回) ふれあいサロンの参加(週1回)又、散歩時等 挨拶や話等したり月1回 地域住民の方が来訪され利用者とともに歌やゲームをして交流している。	秋祭り、かかし祭り、小学校の文化祭等、地域の行事に出来る限り参加している。又、地域住民が参加されるサロンやおさばカフェに出掛け、皆さんと交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	オレンジアドバイザーに登録し地域の人の相談を受けている。又、地元の高校の出前講座、福祉の仕事の理解を深めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議で G.Hの状況等を話し合い 地域の人達の意見も伺って参考にさせてもらっている。(例)ボランティア等の受け入れ G.Hの行事参加の依頼(避難訓練)会議には 地域包括の職員、消防署、女性会、民生委員の方達や家族・利用者が交代で参加してくださっている。	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催され、包括支援センター職員・民生委員・地域代表者・消防署職員・利用者家族・利用者・管理者・職員が参加し、避難訓練、現状報告、行事予定、参加者の意見・要望等を聞き、サービス向上に繋げている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	市の開催する説明会への参加や情報の提供を行うとともにわからないこと、困った事相談し助言を受けている。インターネットで情報収集しわからないことは直接 市役所の窓口相談に行っている。	申請手続き時や報告、又、電話で相談したり、介護保険制度の変更を聞いたり、常に市町担当とのコミュニケーションを図り、良好な関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	外部の研修に参加し その資料を持ち帰り 施設内研修を行っている。職員会議等でケアを振り返り 気づかないうちに言葉をさげざったり気持ちを押しつけていないか確認している。また、職員同士見守りの方法を徹底し利用者のその日の気分や状態を見ながら自由に暮らせるように支援している。	身体拘束をしないケアのマニュアルを作成しており、外部研修に参加して、更に身体拘束をしないケアの大切さを意識統一し、皆で取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	外部の虐待防止の研修会に参加したりその資料を活用して施設内研修を開催し虐待のないよう話し合いの場を持っている。世の中のニュースなどを見て職員同士日々のケア再確認を行っている。		

グループホーム どんぐり村

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	職員会議等で勉強会を開いている。 権利擁護に関する外部の研修に参加している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の締結時、利用者、その家族の方と十分な話し合いを行い理解と了解を得ている。 介護報酬の改定や制度改正等により変更時も利用者、その家族に説明し理解と了解を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者、家族の要望に 添うよう努めている。 (例:家族の依頼により 主治医以外への通院介助、買い物への付き添い、利用者様の家への電話等) ご家族様には 手紙や来訪時 電話等で問いかけて何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意している。	家族の面会時に話を聞いたり、日常生活の中で、常に利用者の声に耳を傾けて、意見や要望を聞き取り、それを職員間で話し合い、運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回の職員会議で意見を聞いている。又、日頃からコミュニケーションを図るよう心掛け問題や提案等その都度解決を図っている。	日々の業務の中や職員会議の中で、意見を聞き、改善点があれば、みんなで話し合い運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	勤務状況等により昇給、ボーナスの支給がある。又向上心を持って働けるよう介護福祉士手当等定めている。職員の疲労やストレス要因について 気を配り気分転換できる休憩室を確保したり 職員同士の人間関係を把握したりするよう努めている。職員の資格取得に向けた支援を行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修の情報を収集し研修へはなるべく多く言ってもらよう機会をもうけている。 研修報告書を全員が閲覧できるようになっている。 G.H内でも月1回研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	[福山西南部ケアマネジメント協議会]への参加 「福山地域タウンミーティング」に参加 他のG.Hとの相互訪問をすることによりサービスの向上に努めている。		

グループホーム どんぐり村

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前面談で生活状態を把握するよう努めたり本人との十分な話し合いにより要望を聞いたり不安等を取り除くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	これまでの家族の苦労やサービス利用状況、経緯などについてゆっくり話を聞きG.Hとしてどのような対応ができるか家族と事前に話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用開始前に職員が会いに行ったりサービスの利用開始時本人が安心し大丈夫と言われるまで付き添っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	本人の思いや苦しみ、不安、喜びなどを知ることに努めお互いが協働しながらともに支えあう関係づくりに留意している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	本人の日頃の状態を報告、相談するとともに 来訪時はご本人と家族の潤滑油になるよう心がけている。何時でも家族へTEIできる体制が整っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人の馴染みの関係が持続出来るようサポートしている。(例 電話) 地域に暮らす馴染みの友人と継続的な交流が出来るよう働きかけている。	近隣の友人・知人の面会や手紙のやり取り・電話の取り次ぎ、馴染みの美容院等、本人がこれまで大切にしてきた馴染みの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	個別に話を聴いたり相談にのったり利用者同士の関係を把握し楽しく過ごせる場面作りをするなど利用者同士の関係がうまくいくように職員が調整役となって支援している。利用者同士の関係性について情報連携しすべての職員が共有出来るようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	利用者さんが入院してもお見舞いに行ったり洗濯物を取りに行ったり亡くなくても葬儀に参列し家族等の話を聴いたり相談にのっている。また、退所後も家族からの相談にのっている。		

グループホーム どんぐり村

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のかかわりのなかで本人の言葉や表情などから暮らし方や希望などを確認するようにしている。意思疎通が困難な方にはご家族などから情報を得るようにしている。	契約時や日々の関わりの中で、本人の生活歴を確認すると共に利用者本人の希望や意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式を利用し生活歴や馴染みの暮らし方を把握するようにしている。(例:花を植える。梅干し、団子作り等)又、家族にどんな生活をしてきたかなど話を聞いて 協力などを得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	利用者一人ひとりの生活のリズムを理解したり、生活面や心理面の状態を把握し、できる事に注目し、その利用者の全体を把握するように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人、家族には日頃のかかわりのなかで思いや意見を聞き反映させるようにしている。又、サービス担当者会議などで職員、多職種の方で利用者本位で話し合い気づき、意見、要望を反映した介護計画の作成に努めている。	介護計画は、ケアマネジャー・ケースワーカー・担当者・管理者・利用者家族の意見を聞きながら、作成している。モニタリングを月1回実施し、6ヶ月に1回ケアプランの見直しを行っている。利用者の状態に変化が生じた場合は、その都度現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録に記入し職員間で情報を共有している。また、月に支援経過に記録、本人の状況を把握し、介護計画を見直すかどうかの判断をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人の思いを傾聴し本人主体の生活が送れるよう配慮している。(例:外食、足浴等、散歩等)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	近所の方の避難訓練の参加地域行事の参加(盆踊り、秋祭り、とんど、茶飲み会等)運営推進会議に地域包括支援センターの職員、地域の方の参加で関係が強化され 情報交換、協力関係が出来ている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月1度の主治医の往診又、緊急時は夜間問わず、すぐに往診にきてくれる。G.Hの協力医のほか、ご家族希望のかかりつけ医での医療を受けられるように支援して、複数の医療関係と関係を密にしている。	入居時に利用者・家族の希望に応じてかかりつけ医は選択でき家族と職員で受診の支援をしている。又、複数の協力医療機関と連携して日々、適切な対応ができるよう月1回の主治医の往診や、週1回、看護師による医療面や健康面の支援をしており、歯科受診の日もある。	

グループホーム どんぐり村

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	利用者の情報や気づきを伝え相談している。 又、薬の変更や通院時も記録に残し情報を共有している。1週間に1回健康面や医療面での相談、助言、対応を行ってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時すべての情報を提供している。 退院については、家族と話し合い本人にとって良い方法を選んでもらっている。 入院時2～3日に1回は、職員が見舞うようにしている。 又 退院後も回復状況の報告をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合、終末期について本人、家族、主治医と何度も話し合いを持つ機会を作って、安心して最期を迎えられるように意志を確認しながら取り組んでいる。	契約時に於いて、「医療・介護が重度化した場合における指針」を説明して、グループホームで対応出来る支援について説明し、家族の意向を把握している。重度化に向かう段階で、主治医を交え家族の意向を確認し、安心して最期を迎えられるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時、事故発生時に備えてマニュアルの作成、応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。 外部の研修会に参加している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害対策のマニュアルの作成 地区の災害対策への参加 年2回、利用者とともに、避難訓練を行っている。 地域の協力体制は、運営推進会議にて呼びかけている。	全市一斉の防災訓練に参加して、避難場所(お寺)を確認した。又、年2回の避難訓練を実施し(その内1回は、消防署指導)夜間を想定した訓練も行っている。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	援助が必要なきも本人の気持ちを大切に考えて、さりげないケアを心がけたり、自己決定しやすい言葉かけをするように努めている。	声掛け、対応に不適切な事があれば、その場で注意している。(スピーチロックしない声掛け等)利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないように対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員側で決めたことを押し付けるようなことはしないで本人の思いを傾聴どのようにしたら良いかその都度聞くようにしている。(外出、食事の内容、体調の悪い時の臥床)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的な1日の流れはあるが一人ひとりのペースを大切に、それに合わせた対応を心がけている。		

グループホーム どんぐり村

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人にとっての思いを尊重し服の購入時は一緒に行って購入することもある。 更衣時好みの服を選んでもらうようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事を楽しむことが出来るよう土筆、イモづる等を一緒に 下ごしらえしたりしている。 食事時一緒に下ごしらえした食材について話をしながら 食事をしている。	普段は、食材が届き調理しているが、週1程度は、手作りの食事にしよう心掛けている。(お好み焼き等)又、時には、外食したり、出前を取る事もある。役割として、利用者が出来る事を職員と共に楽しみながら、行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事、水分量1日の量を記録し一人ひとりの状態を把握している。食事が少ない利用者さんには個別に高カロリー捕食品や本人の好物や食べやすいものを出すようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	自分で出来る方は 声掛け見守りをしている。(利用者の状態に合わせて対応している) 毎食後に行っている。夜間は義歯は預かり消毒している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	利用者の様子から察知し身体機能に応じて手を差し伸べたりしている。トイレでの排泄を大切に紙パンツ、パット類も本人に合わせて検討している。尿意がない利用者も排泄チェック表を使用し、時間を見て誘導し、トイレで排泄できるように支援している。	排泄チェック表を作成し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導をして、自立への支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食事・水分量を記録し、水分補給を心がけている。 又、排泄チェック表に記録し、便秘にならないように食事などの工夫をしたり、運動を行っている。 トイレ時腹部マッサージをしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴が嫌いな人もいるので声掛け等に気をつけている。 洗髪、入浴を拒否された場合、時間をあけて声掛けしたり入浴日を変更して行っている。	入浴は、体調に合わせて週3回支援を行っている。入浴できない場合は、足浴したり、清拭をして、清潔に保てるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中の活動を促し生活リズムを整えるようにしている。 眠れなくて眠剤を飲まれている方には睡眠状態を観察・記録している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の目的、副作用、用量等は理解し、主治医と連携を密にしている。薬の処方や用量が変更された時、本人の状態変化が見られるよう記録を取っている。		

グループホーム どんぐり村

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりの力を発揮してもらえるようお願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。(洗濯たたみ、干し柿作り、イモづるの下ごしらえ)		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	河川敷や近くのお寺へ散歩に行ったり、お弁当を持って花見に出かけたり、もみじ狩りに行ったり、外食したりと 戸外へ積極的に外出している。	近くの河川敷を散歩したり、季節を感じられるよう桜祭りやさつき鑑賞、紫陽花寺、バラ園に出掛けたり、ほたるの夕べ、七夕飾りの見学、ひな人形鑑賞等、積極的に外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族の協力を得てお金を持って買い物と一緒に行って、支払いを自分で行ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	利用者の希望に応じて、日常的に電話ができるようにしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節の花を飾り季節感を味わえるように心がけている。季節を感じられる飾り付けをしている。	台所からは、ご飯が炊ける匂いや様子が伺え、居間には自分のお気に入りの場所があり、寛いでおられる。壁面は、季節を感じられるよう工夫があり、手作りの飾り付けがしてある。落ち着いた居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有空間ではそれぞれにあった椅子、ソファーがあり1人で過ごしたい人用に、少し離れた所に椅子を用意している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	寝具やタンス・写真等思いでの品々が持ち込まれ、それぞれの利用者の居心地のよい空間を作っている。	居室には、家族写真・テレビ・タンス・カレンダー・時計・ポット等、使い慣れた物が、設置されていて、本人が、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	本人にとっての思いを尊重し、服の購入時は一緒に行って購入することもある。本人にとって「どうしたら本人の力でやっていただけるか」を追求し、状況に合わせて環境整備に努めている。混乱状態や失敗が生じたときはその都度、職員で話し合い、本人の不安・混乱材料を取り除き 自立支援につなげている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の3分の2くらいの
			③利用者の3分の1くらいの
			④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の3分の2くらいと
			③家族の3分の1くらいと
			④ほとんどできていない

グループホーム どんぐり村

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の3分の2くらいが
			③職員の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の3分の2くらいが
			③家族等の3分の1くらいが
			④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム どんぐり村

作成日 平成29年 11月 24日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	19 29	家族を交えての地域交流を増やす	家族と地域で連携し本人が楽しく生活できるよう支援する	・ボランティアの受け入れ ・地域行事・施設行事の参加にともなう家族への声掛け ・家族、地域の人が本人と一緒にくつろげる環境作り	1年
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。